



第1回 加茂市菊花展 (冬鳥越スキーガーデン)

お気軽においでください。

市民と市長の「よもやま話」の日

2月28日(月)・午後1時30分から行います。
・時間等については御相談ください。

【受付・問い合わせ】 市役所3階 総務課広報広聴係
(☎52-0080 内線323)
までお願いします

主な内容

- 市制施行50周年記念式典を開催… ②⑩
- 野中広務氏記念講演の要旨…………… ⑥
- 市展賞受賞作品紹介…………… ⑫⑬
- 税に関する作文・標語…………… ⑭
- やさしい医学・歯の健康…………… ⑮
- 加茂の風土記…………… ⑯

加茂市市制施行50周年記念式典

加茂市市制施行五十周年記念式典が十一月十日、加茂文化会館で盛大に開催されました。

式典には、一般市民の皆様四百人も出席され、

泉田裕彦新潟県知事、国会議員、県議会議員、

小川新潟県市長会長、各市町村長、各市町村議会

議長、県の各機関の長、藤井大島町長、白井大島

町議会議長、阿部商工会議所会頭、太田前市長、

登坂加茂暁星学園理事長、蛭名新潟経営大学長を

はじめ各界の方々とおあわせて、約千人の方々が

出席されました。

第一部の式典では、吉田淳二助役の開式の辞、

市民六十人と小中学生六十人の合唱団（指揮・押

見栄喜先生、ピアノ伴奏・丸山伸子先生）による

君が代・加茂市民歌斉唱で幕を開けました。合唱

団と一緒に、君が代は全員で歌い、加茂市民歌は、

市内の中学校の吹奏楽団（指揮・金澤克博先生）

の演奏に合わせて加茂市民全員で高らかに歌い

ました。

続いて、市内小学校六年生十人が、元気に加茂

市民憲章を朗読しました。

式典は、小池清彦市長の式辞、樋口博務市議会

議長の挨拶、泉田裕彦新潟県知事・渡辺秀央参議

院議員・森ゆうこ参議院議員・菊田まきこ衆議院

議員・新潟県議会議長代理の金谷國彦県議会議

員・藤井静男大島町長の来賓祝辞と続きました。

次いで、来賓紹介と祝電披露が行われました。

次に、第一部の後段に移り、加茂市出身で各界

で活躍中の三人の皆さんからスピーチなどがあ

りました。

まず、日本を代表する声楽家で藤原歌劇団の三浦克次さんがスピーチのあと「見上げてごらん夜の星を」、オペラ「カルメン」より闘牛士の歌「諸君の乾杯を喜んで受けよう」の二曲を祝唱され、満場を魅了されました。（ピアノ伴奏は、伊藤順子さんでした）

また、宝塚歌劇団星組の一輝慎さんから「入団五年目で宝塚は九十周年、加茂市は五十周年と、私にとって格別の年。いつも美しい四季折々のふるさとを大変誇りに思っております。」とスピーチがあり、会場に大輪の花が開いたような華やかだ霽困気となりました。

続いて、やむなく映画のロケ中で欠席となった女優の樋口可南子さんの「東京での暮らしが長く

なつた私ですが、加茂市の自然や静かなたたずまいを思い出すと、温かな気持ちになります。加茂のそんな魅力が変わらないまま、さらに、すてきなまちに発展されることを心からお祈りいたします。」というメッセージが紹介されました。

最後に、合唱団と一緒に、全員で「ふるさと」を歌い、齋藤保収入役の挨拶で式典の第一部を終了しました。

休憩を挟んだ第二部の記念講演では、元自民党幹事長・元内閣官房長官の野中広務先生が「今、日本を憂う」と題して、二十年余り衆議院議員として国政の中枢におられた思い出なども交えながら、憂国の情熱あふるるお話を一時間半にわたって語られ、深い感銘を与えられました。



加茂市出身の音楽家 三浦克次さん



記念講演をしていただいた野中広務先生



ミス雪椿クイーンから花束を贈呈



加茂市出身で宝塚歌劇団星組の一輝慎さん



記念式典に出席された方々



市民合唱団の皆さん



市内中学生の吹奏楽団



元気な10人の小学生による市民憲章朗読



菊田まきこ 衆議院議員



渡辺秀央 参議院議員



泉田裕彦 新潟県知事



藤井静男 大島町長



金谷國彦 県議会議員



森ゆうこ 参議院議員



市民歌斉唱



樋口博務 市議会議長



小池清彦 加茂市長



市民合唱団を指揮する押見栄喜先生



齋藤 保 加茂市収入役



吉田淳二 加茂市助役



司会をしてくださった
BSNアナの伊藤麻子さん

記念講演「今、日本を憂う」

元自民党幹事長
元内閣官房長官
野中広務先生

(要旨)

二十五歳で京都府園部町議会議員となつてから、園部町長、京都府議会議員、京都府副知事を経て、衆議院議員として二十余年、国政に関わつてきた。町長時代に思ったことは、東京(中央官庁)には府政という意識はあるが、町村自治はないことに気づき、おかしいと疑問に感じた。道路公団を民営化して、道路に特定していた特別会計が一般会計化されようとした時、名は小泉(総理大臣)さんに与え、実は採算の採れない高速道路は手をつけたいが、採算のとれるものは国が直轄でやると決め、結果的に地方からは一二〇%の成功と評価を受けた。

小淵内閣で官房長官、その前の村山内閣で自治大臣・国家公安委員長として、阪神・淡路大震災の対応に当たった。当時は情報で中央に全く入らないなどの問題があったが、今回の中越地震の初動は見事だったと思う。神戸と違い強固なコミュニティがあるが、今後は心のケアの問題が重要で、被災された方の一日も早い復旧を祈っている。

防衛庁の幹部だった小池市長さん

が、イラクへの自衛隊の派遣について勇敢にも慎重論を発言してくれたことに大きな感動を持っている。イラク特措法の時、党の総務会で法案中の大量破壊兵器の処理をすることを、戦争を体験した者として、戦争に大義はなく、削除させるに至った。自衛隊が初めて海外で陸上任務をするようになったが、一億火の玉という言葉の中に、男子の本懐を信じ育つてきた私は、帰りの燃料を持たず散つていった特攻隊の若い命をはじめとする、多くの犠牲の上に六十年近い人生をいただくことができた。再び戦争という愚かな道を歩んではならない。批判する声がなくなつていくが、いけないことはいけないと勇敢に発言しなければならぬ時代である。

今度の郵政問題は、日本郵政公社としてスタートしたばかりなのに、わずかに数カ月後に小泉(総理大臣)さんは民営化を言っている。

農は国の基である。三位一体という名のもと、地方がおろそかにされようとしている。銀行合併やダイエーの問題などもズタズタになり、外資に持つていかれようとしている。イラクのサマワに迫撃砲が撃ち込まれては、今まではなぜか信管が抜かれた弾が撃ち込まれている。日本のマスコミは、自衛隊と安全確保の協定を結んだが、内閣官房と結

ぶべきでマスコミの自殺行為である。自衛隊が命じたときは撤去する約束で、サマワに日本のマスコミはおらず、三月以降サマワの映像はテレビに映らない。

今、日本では、一日百人の割合で自殺しており、大変異常な事態になつている。景気は若干上向きのものであるが、中国などに便乗したもので来年後半には傾くと思う。国が歳出出動しないで景気をよくすることはできない。新潟の災害復旧にも影響し、心を痛めている。

京都の鴨川にも勝る加茂川の清流を守り、小京都といわれる加茂市が光り輝き、ますます栄えることを期待して、言葉は足りないが私の責を果たしたい。

野中広務先生プロフィール／大正十四年・京都府園部町生まれ／昭和二十六年・園部町議会議員に当選／園部町長／京都府議会議員／京都府副知事／昭和五十八年・衆議院議員に初当選／自治大臣・国家公安委員長／内閣官房長官／自由民主党幹事長 等を歴任後、平成十五年に衆議院議員を勇退。

現在の主な役職／社団法人日本中国友好協会名誉顧問／京都府身体障害者団体連合会会長／京都府スケート連盟会長／京野菜を育てる会会長等

著書／「私は闘う」「老兵は死なず」

文藝春秋社刊

市長式辞

本日ここに、加茂市より御就任の泉田新潟県知事様、国会議員の先生方をはじめ多数の御来賓の御臨席を賜り、加茂市市制施行五十周年記念式典を挙行できまことは、誠に喜びにたえないところであります。

初めに、さきの新潟県中越地震および七・一三水害におきまして、お亡くなりになられました方々の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に対しまして、謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧と、皆様方の御健康を心からお祈り申し上げます。

さて、加茂市は昭和二十九年三月十日、加茂町と下条村が合併し人口三万一千七百人、市域四十五平方キロメートルの新しい市として、県下九番目に市制を施行いたしました。続いて、同年十一月に中蒲原郡七谷村と、また翌三十年十一月に須田村とそれぞれ合併して、市域百三十三平方キロメートル、人口三万九千人となり、爾来「北越の小京都」といわれる美しい自然的・歴史的風光と人情

豊かな優しい市民性のまちとして発展を続けてまいりました。産業といたしましては、伝統的なたんすを中心とする木工業と、機すなわち織物業が発展し、織物業はやがてニットに変わっていきましました。そして、さらに金属加工業が発展いたしました。大企業ないしは先端産業としては、電気産業、機械工業、さらにエレクトロニクス産業が発展いたしました。

一方、昭和五十五年から駅前、穀町、本町の土地区画整理事業を開始し、その完成の後には、さらに仲町、上町の商店街近代化事業を完成し、現在、五番町の商店街近代化事業を推進しているところでありまして、今後できるだけ早く新町へ進んでいきたいと考えております。また、商店街近代化と併行して、商店街の厚い保護に努めているところであります。農業につきましては、今や加茂市は、複合化が極めて進んだまちとなり、おいしいコシヒカリの生産地、また県内の二大果樹生産地の一つとして発展を遂げているところであります。

また、この五十年を経て、加茂市には新潟経営大学という優れ

た大学をはじめ、極めて多くのすばらしい学校が存在することになり、一大学園都市ともなりました。

昭和四十二年、第一回雪椿まつりが開催され、椿の御縁もあつて昭和四十三年、日本を代表する景勝の地、伊豆の大島町と友好都市となり、爾来この上なく仲良く助け合いながら今日に至っておりますことは、本当にありがたいこととございます。

また、平成三年、ロシアのコムソモリスク市と、平成五年、中国のツーボー市とそれぞれ友好都市となり、緊密に交流を深めてまいりました。また、昭和四十六年、隣の田上町と衛生施設組合、平成元年に消防衛生組合をつくり、最も親密なまち同志として、お互いに自立しながら助け合い、共に発展してまいりました。

さて、今日までの五十年の歩みの中におきまして、加茂市は大きな災禍に見舞われました。すなわち加茂市は、昭和四十二年と四十四年に未曾有の大水害を受け、九人もの尊い生命が失われ、大きな被害を受けました。この大水害を契機として、国・県の強力な御支援のもと、推進されました加茂

川・下条川の抜本的改修事業は、移転した世帯六百、建物千二百七十六棟、買収用地六十四万六千平方メートルに及ぶ大企業で、当時の物価水準で約三百億円の巨費が投じられました。また、このとき移転された方々の行き先の一つとして西加茂地域が造成され、今日大きな発展を遂げているところであります。お蔭をもちまして、加茂市は水害に強いまちとなり、各地に大きな被害を与えた本年の七・一三水害でも最小限の被害にとどまったところであります。しかし、今後とも、油断は禁物であり、不断の注意と努力が必要であります。

このようにして、お蔭様で加茂市は、この五十年の間に目覚ましい躍進を遂げることができました。これもひとえに国・県御当局並びに近隣および県内各市町村の皆様方の絶大な御支援の賜物でございます。ここに心から厚く御礼申し上げます。また、営々として今日の加茂市を築いてこられたお一人おひとりの加茂市民の皆様方と、歴代の市長、市議会議員をはじめ、関係の皆様方の大いなる御尽力に対しまして、心から深く感謝申し上げます。

ございます。

現在、加茂市は、高い水準で、商工業と農業と自然環境が守られているまちとなりました。また、二つの特別養護老人ホームと一つの民間の老人保健施設、六十五人のホームヘルパー、在宅介護・看護料の無料化、七つのコミュニティセンター的施設、二つの子育て支援センター、加茂美人の湯、乳幼児と妊産婦の医療費原則無料化、県下の市では最低の保育料・水道料と最低クラスの介護保険料、六十五歳以上の無料インフルエンザ予防接種など、高い福祉の水準を享受しております。

行き届いた教育にも意を用いております。立派な文化会館や公民館、図書館等の文化施設を持ち、温水プールをはじめ、体育施設も整っております。

道路と下水道と、幾つかの大きな公園も着実に整備されつつあります。信濃川に架かる加茂大橋の完成も間近であります。

私たちは、今後これまでに築き上げた市政の水準を断固として堅持し、市民の皆様お一人おひとりを大切にし、お幸せにする、市民中心の真の民主的市政を推進していく決意であります。

また、地方を破壊する市町村合併に組みまわることなく、堂々かつ悠々と自立し、国による意図的な地方圧迫の嵐にいささかも屈することなく、嵐が過ぎ去った後、燦然として輝く道を進む決意であります。

そして、私たちは、一丸となつて加茂警察署を守り抜き、加茂病院を守り抜く決意であります。

このようにすることが、欽明天皇の御代以前から、千五百年以上にわたり、加茂地域の栄光の歴史を守ってきた我々の祖先に対する、私たちの責務であると確信いたします。

本日は、御来賓の皆様方並びに加茂市民の皆様方には、御多忙のなか御臨席を賜りまして、本当にありがとうございます。何とぞ今後とも、加茂市発展のため、一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成十六年十一月十四日

加茂市長 小池清彦

市議会議長挨拶

市制五十周年記念式を挙行されるにあたり、加茂市議会を代表して、一言御挨拶を申し述べます。

本日は、新潟県知事殿をはじめ、御来賓の皆様方におかれましては、何かと御多用のなか、御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、大勢の加茂市民の皆様方から御来賓を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、七・一三水害並びに、このたびの新潟県中越地震により、被害に遭われました加茂市民の皆様方に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。さらに、かかる天災により甚大なる被害に遭われました各市町村に対しまして、謹んでお見舞いを申し上げます。何とぞ、貴被災住民の皆様方の安寧のため、一日も早い復旧がなされますことを御祈念申し上げます。

さて、わが加茂市は、昭和の大合併により、昭和二十九年から三十年に、下条村、七谷村、須田村と合併いたし、市民の皆様方の絶

大なる期待のもとに、新しく加茂として発足し、人口は三万九千二百九十二人でございました。

爾來、歴代五代の市長を先頭に、旧村のハード事業を最優先に、まちづくりを推進してこられました。しかし、この五十年間の道のりは、決して平坦なものではなく、昭和三十八年の豪雪、昭和四十二年と四十四年の相次ぐ大水害と、苦難の連続でもありました。

しかし、それらにめげることなく、昭和五十六年にはこの文化会館の完成、昭和五十八年には、長かった加茂川改修の概成、平成五年には市庁舎の完成移転、平成六年には県央初の四年制大学の開学、平成十四年には待望の温泉施設の開館などを進め、現在は信濃川に架かる加茂大橋の一日も早い完成を目指しております。

一方、近年の少子高齢化などの行政需要に対しましても、着々と適切な対策がとられているのであります。

これも、ひとえに市民の皆様方

の長年の御努力と御協力、そして県御当局をはじめ関係機関の格別な御支援、御指導の賜物であります。

そして、先達と皆様方の御尽力によって築き上げられた、この明るく豊かで潤いのある「北越の小京都加茂市」を、さらに磨きをかけて子孫に伝えていかなければならない責務を痛感しているところであります。

ここに、加茂市制五十周年を祝し、わが加茂市発展のために、御協力、御指導を賜りました市民の皆様、関係各位に心から感謝申し上げますとともに、ますますの御活躍と御多幸を祈念し、私の御挨拶といたします。

平成十六年十一月十四日

加茂市議会議長 樋口博務

三浦克次さん あいさつ

本日は、大変おめでとうございます。加茂市出身の三浦克次でございます。おめでとうございますと言うと同時に、私も加茂市に生まれた人間として、とても嬉しく思います。

お祝いの歌を二曲聞いていただきますが、ちょっとお話しをさせていただきます。

私は、歌手をやっておりますので、常に全国いろいろなところでコンサートで歌ったりします。

この市制五十周年で先日思い出したので、岐阜県的美濃加茂市というところにコンサートに行ったときです。市の職員の方が、「新潟県の加茂市の出身です」と言うので、「ああ、そうですか」と、とても驚かれています。理由をお聞きしますと、実は岐阜県的美濃加茂市と新潟県の加茂市が同じ年のほぼ同じ時期に市になることを申請していて、タツチの差でこちらの加茂市が先に「加茂市」になったということです。それで、あちらの方はタツチの差で負けたことによって「美濃」と

いう非常に画数の多い字をいちいち書かなければならなくなり、「美濃加茂市」という印を作り直して、「非常に大変な思いをしました。先日は、お話を聞いていただきました。先日インターネットで調べてみたところ、美濃加茂市のホームページで先週十一月六日に市制五十周年記念式典が無事に終わりました」という写真が出ておりました。場合が場合ならば、あちらが「岐阜県加茂市」で、こちらが「越後加茂市」になっていたのかもしれないという話を思い出しました。

それからもう一つは、いろいろなところに行きまして、コンサートの前には市内のホテルから散策をするのですが、どこに行ってもいいなと思う街とそうでもない街があります。いいなと思う街、とても気持ち落ち着くなと思う街には、大体、街の中に川が流れています。「ああ、これはやっぱり加茂川の近くで育ったせいなんだ」とあらためて思いました。それから、樹齢何百年という木を見るとほっとするのも、やはり加茂山の杉や、いろいろな自然の中で育った僕のどこかに染みつい

ているんだなと感じ、加茂市から受けた恩恵は、はかりしれないなと、ありがたく思っております。そんな自然と、芯が強いながらも温かい加茂市民の気性という人情が、末永く残りますように祈っておりますし、残るだろうと確信しております。そして、先ほど市民憲章を朗読された方々、市民歌を歌われた小中学生はじめ、加茂市に今育っている子どもたちが、将来加茂市に残るにしろ、私のように外に出るにしろ、田舎として誇れる加茂市であってほしいと思います。

新潟県も不幸な大変なことが多いので、きょうは一曲目に永六輔作詞、いずみたく作曲の「見上げてごらん夜の星を」。あまり下ばかり向いていないで、せっかく加茂市の空もきれいで上を見て未来に向かっていこうという気持ちを含めまして、この歌を歌わせていただきます。そして、もう一曲、私の本業でありますオペラのピゼー作曲「カルメン」の中から「闘牛士の歌、諸君の乾杯を喜んで受けよう。」を。今日という日にふさわしいと思ひまして、この二曲を歌わせていただきます。

一輝 慎さん あいさつ

宝塚歌劇団星組の一輝慎でございます。

本日は加茂市市制施行五十周年、まことにおめでとうございます。また、このような式典に列席させていただきますことを本当に嬉しく、また光栄に思っております。ありがとうございます。

私は、この加茂市で生まれ、加茂で育ちました。今は加茂を離れて暮らし、生活しておりますが、そうした中で思いますことは、春には桜が満開になる加茂山、夏の花火大会、秋になれば山々は紅葉し、冬は辺り一面の雪景色と、美しい四季折々のふるさとを感じることができ、大変誇りに思っております。また、粟ヶ岳の麓から流れる加茂川、この加茂川を中心に立ち並ぶ街並み、周りの山々など、こうした美しい豊かな自然がいつまでもいつまでもあつてほしいなど、心より思っております。私が宝塚歌劇団に入団して五年目になります。宝塚歌劇も今年で九十周年を迎えております。

四月には九十周年式典、先月の十月十二日には十年に一度という大運動会がありました。その大運動会で、私事ではございますが、リレーに出場したいという夢がありました。その夢も叶うことができ、こうした席にも参列、列席することができまして、私にとりまして今年はとても格別な年になったと思えます。

また、十一月二十六日より十二月二十六日まで、東京宝塚劇場にて「花舞う長安・ロマンチカ宝塚04」に出演しております。皆様どうぞ足をお運びください。お待ちしております。

最後になりましたが、このたびの七・一三水害、中越地震で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございます。

樋口可南子さんメッセージ

加茂市市制施行五十周年、おめでとうございます。

子どものころ、過ごした加茂市の風景を懐かしく思い出します。

東京での暮らしが長くなつた私ですが、加茂市の自然や静かなたたずまいを思い出すと、温かな気持ちになります。

加茂市のそんな魅力が変わらないまま、さらに、すてきな街に発展されることを心からお祈りいたします。

樋口可南子

第37回 市展

市展賞受賞作品紙上紹介



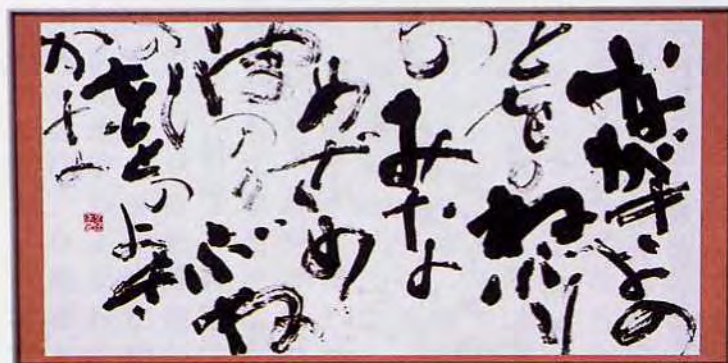
洋画

「残像」丸山悦代

日本画

「残雪の粟ヶ岳」

種村幸夫



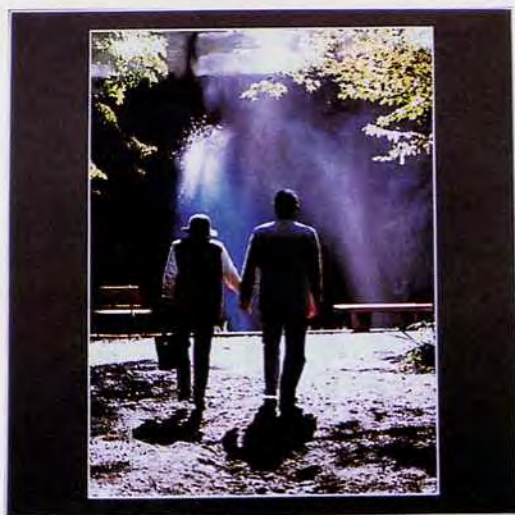
書道

「寶船」
泉田佑子



工芸

「燃え立つ」
金子良一



写真「歲月」松田春雄



彫刻

「凜」長谷川優子

日本画「残雪の粟ヶ岳」

種村幸夫さん（青海町二）

加茂のどこから眺めても雄大な粟ヶ岳を、美しく表現したいものと思っています。

そこで、粟ヶ岳の制作を、亡くなった番場春雄さんが審査員をなさっておられた第十九回の加茂市展から出品し、懸命に描いたものを発表し続けてまいりました。

今回で十五枚目の粟ヶ岳の作品です。山の姿を実際よりもやや誇張して堂々となるように描き、色彩はなるべく重ならないようにパランス良くと心懸けました。完成に近づくにつれ、下図の段階で、もっと細かな個所を注意深くよく見ておけばよかったのに、何度も痛感しながら、それでも最後まで丁寧に描くことができました。

思いがけずに賞を頂き、驚くと同時にうれしいです。今後も市展に出すことを心掛けて日本画の制作を続けたいものです。

洋画「残像」

丸山悦代さん（都ヶ丘）

市制五十周年と伝統ある加茂市の市展で、市展賞をいただき、大変嬉しく思っております。この受賞を励みとして、今後も意欲的に創作を続けたいと思います。

私はキャンバスに向かうときはモチーフや資料等は一切使いません。自分の記憶や思考の中から色や形を思い浮かべて筆を持ちます。今回の出品制作過程では、制作の難しさを知らされました。色を何色も重ねては自分の思い描くものと異なり、またその上から色を重ねました。画面から出現する残像のような人影を現れては埋め、現れては埋める作業を繰

り返しました。そうして絵に対して考えが行き詰まっていた時に出来た作品が「残像」です。この作品に賞をいただき、大変よい思い出になりました。今後も絵画の一つの表現手段として楽しんでいきたいと思っています。

彫刻「凜」

長谷川優子さん（岡ノ町）

この作品は、彫刻サークルと公民館初心者彫刻教室の皆さんと一緒にお願いしたモデルさんを作ったものです。とても「きりつ」とした顔立ちのモデルさんでしたので「凜」という題にしました。

粘土から石膏にする段階で、失敗もしてしまいました。私の中では、初めて「しっかき」着色した作品です。（四つ目の頭像です）同じモデルを作っても、それぞれ違った彫像に仕上がるのは、見ていて面白いものです。賞の如何にかかわらず、全ての彫刻作品を後ろから横から、ななめから、見ていただけたら良いなあ、と思います。

工芸「燃え立つ」

金子良一さん（秋 房）

市展賞を頂くことが出来て嬉しく思います。美術のことは、全く無知であった私が、大先輩の誘いに従って、七十歳の手習いとして始めたのが事実で、現在もまだまだ幼稚園生の如くで、分からないだらけなのです。

市展賞を頂いた作品は、美術、また人生に對して、あくまでも謙虚に燃えるような情熱で、ただただ希望を持って明日を目指し、どんなことも乗り越え学んでいくという私の心情を表現しているのです。

大先輩の偉いアドバイスを大事にして精進してゆきたいと思っております。

書道「寶船」

泉田佑子さん（本 町）

「長き夜の遠の眠りの皆目覚め波乗り船の音の良きかな」

この回文は、ご存じのように江戸時代に流行った縁起物で、寶船の絵と一緒にこの歌を書き、正月二日に枕の下に置いて寝ると、良い初夢が見られるといわれています。「幸福は回って来るもの」ということから、上から読んでも下から読んでも同じ文句です。

作品では、四方どこからでも福が入って来れるように、白の空間を効果的に使うよう心掛け、めでたい気持ちを表現しました。

「生活の中に生きる書」の制作活動を続けておりますが、今回、私が目指すその「現代の書」という分野を評価していただいたことは、何よりも励みになりました。

写真「歲月」

松田春雄さん（第二十三区）

加茂山公園で、仲睦まじく手をつないで散歩なさっている、御夫婦を見かけました。

これまで二人で歩いてこられた、様々な人生の歳月が後ろ姿に滲みでているようで、見ていれ心むむ思いました。

その雰囲気私に何か問いかけているように感じ、ためらわずシャッターを切りました。今回、名誉ある賞を頂くにあたりまして、先輩、クラブの仲間、地域の友達、店の方々等多くの皆様方の御指導のお陰だと感謝致しております。

今後とも、精進に励み、一枚でも多く感動する写真を撮りたいと思います。

新潟日報美術振興賞・奨励賞・振興賞の皆さん

新潟日報美術振興賞：日本画「青海神社」山中富士夫（学校町）洋画「ひめさゆり」渡辺美保子（下田村）彫刻「K・Yさん」柄澤純二（第2区）工芸「荒波に耐えて」本田千晴（岡ノ町）書道「李白詩」岡野秀山（高須町2）写真「慈しむ大樹」三浦二郎（五番町）奨励賞：日本画「つばき」中村幸子（新津市）、「梅林に囲まれた民家」松田整治（柳町1）洋画「増殖」永井美奈子（栄町）彫刻「神無月」中澤恵子（八幡2）工芸「白化粧線描野ぶどう壺」小柳英一（八幡1）「花器「潮風」」小池ゆう子（八幡2）、「くつろぎ」関川寿子（神明町2）、「輝燦架」乙川テイ（黒水中区）書道「香紙切」小柳喜代（千刈1）、「唐詩」相波富高（小橋2）、「よられつる……」稲垣映華（田上町）、「良寛詩」小柳悠山（赤谷）写真「夏の日」渡辺恵子（下鶴森）、「お姉ちゃんになった日」樋口八重子（五番町）、「フィーバー」山田和栄（三条市）、「鳥と蝶」乙川知昭（黒水中区）、「夏の朝」上木千夏子（三条市）、「仲よし」大平信（栄町）振興賞：洋画「動物四匹家」今井寿芽子（加茂高）、「肺ガン」前山唯（加茂高）書道「臨 孫秋生造像記」番場はるか（三条東高）、「木蘭 臨書」番場愛美（加茂高）

未来のために：税に関する作文・標語

「税」の仕組みと役割について知識と関心を高めてもらおうと市内中学校から作文と標語を募集しました。作文は二百四十六点、標語には五百五十一点の応募があり、この中から次の各賞が決まりました。

【作文】

【新潟県納税貯蓄組合総連合会長賞】
「税金のバトン」を次世代に」加茂中
三 田篠絵理香

【三南地区納税貯蓄組合連合会長賞】
「確定申告の意味」(葵中三 永井恵里子)「税の大切さ」(七谷中三 田浦日香里)「人々の支え合い」(若宮中三 永井佑果)「お年寄りのために」(須田中三 樋口祥子)

【加茂市租税教育推進協議会長賞】
「夢と税金」(加茂中三 島倉優子)「税金について」(葵中三 井上舞)「税金について」(同 小林恵)「税金と生きる自分」(七谷中三 小野水理奈)「幸せな暮らしができるために」(同二 中村瞳)「大切な税金」(若宮中三 渡辺瑠璃)「税の役割」(同 馬場晃)「税について」(須田中三 山下洗太)「税金の大切さを知り」(同三 山内麻里江)

【新潟県租税教育推進協議会長賞】
「姿変え みんなに届く 夢の税」(須田中三 佐藤由理香)

【三条税務署長賞】

「考えようみんなを支える身近な税」(加茂中三 三浦あずさ)「税の意味を知ることこそが生きる税」(葵中三 横山大樹)「ほらそこに暮らしを支える税がある」(七谷中三 外山結依)「納税とこころで築こう輝く未来」(若宮中三 永井佑果)「納税で築く社会と確かな未来」(須田中三 山下翼)

【加茂市租税教育推進協議会長賞】

「税の道豊かな未来へ歩む道」(加茂中三 佐野文香)「税金は自分のためにみんなのために」(葵中三 諸橋彩)「税納め安心できるこの暮らし」(同二 鎌田麻椰)「税という土台を作って良い社会」(同三 小林舞)「税金で住みよい社会育てよう」(七谷中三 茂野優麻)「国民の暮らしをたすけるみんなの税」(同二 菊田あず香)「明日へと明るい未来をつなぐ税」(同三 小柳千帆)「税金で明るい未来と豊かな暮らし」(若宮中三 皆川大樹)「税金は一人一人の支え合い」(同二 上野康之)「税金を納めて安心この未来」(同三 坂上通香)「ありがたう豊かな暮らしを築く税」(須田中三 高橋晶子)「納めよう豊かな明日を築くため」(同二 小林貴大)「かぎりない未来を照らすみんなの税」(同三 五十嵐依子)

第47回

総体の結果



太極拳

期日 十月三日
会場 市民体育館
※太極拳は、二十三名が参加し、講習会形式で開催されました。



剣道大会

期日 十月十日
会場 下条体育センター
【個人戦】▼小学校3・4年生①古寺未来(下条剣士会)②土田真生(加茂剣士会)③渡辺佑樹(下条剣士会) 増井龍太郎(同)▼小学校5・6年生①坪谷春輝(下条剣士会)②森山勇太(同)③横山大佑(加茂・南)大湊真希▼中学生①古川拓也(つづじヶ丘剣道教室C)②目黒恭平(同)③小嶋弘樹(同) 坂上稜(同)▼一般男子①木津博文(加茂剣道会)②大久保勝昭(同)③番場馨(同) 川崎哲夫(同)

【団体戦】▼小学校3・4年生①下条剣士会E②下条剣士会C③下条剣士会B、下条剣士会D▼小学校5・6年生①下条剣士会②加茂・南③加茂剣士会▼中学生①つづじヶ丘剣道教室C②つづじヶ丘剣道教室A▼一般男子①加茂剣士会C②加茂剣士会



グラウンドゴルフ

期日 十月十一日
会場 リバーサイド加茂グラウンドゴルフコース

【個人】▼男子①皆川光雄②石塚信雄③坂上正二▼女子①高橋順子②大湊ユリ子③山崎優子
【団体】①陣ヶ峰C②岡ノ町D③陣ヶ峰D



バレーボール

期日 十月三日、十六日
会場 勤労者体育センター
【小学生の部】①加茂JVC-A②須田スパイターマン③須田JVC-A、加茂JVC-B
【中学生の部】▼男子①ワタちゃんズ▼女子①葵中3年②加茂中A③七谷中、若宮中
【一般男子シニアの部】①DREAM-S



バスケットボール

期日 十月三十一日、十一月七日
会場 加茂中学校体育館、勤労者体育センター、市民体育館
【中学生男子の部】▼2・3年生①葵中3年A②加茂中3年A③加茂中3年B、若宮中3年▼1年生①加茂中②若宮中



駅伝競走

【高校一般男子の部】①MANAGEMENT②Team伊之助③Zephyr、ジュリアス

期日 十一月七日
会場 陸上競技場周辺周回コース
【5区間10・5kmコース】▼小学生男子①FIRE DODGE(佐藤正明、加藤翔也、高橋隼登、中野雅宏、安藤翔太)②ジュニア陸上A(上野貴之、田辺匠、小出雄太、五十嵐翼、土田良紀)③TEAMドッジ(坪谷和貴、志田昂太郎、牛腸貴博、熊倉諒太、後藤耕大)▼小学生女子①下条ビクトリーズ5(塩崎琴美、坂田夏菜、松田楓、小林珠梨、長谷川佑紀)②ドッジボール女子軍団(阿部瑞希、小川由衣子、丸山未奈希、大堀一紗、番場史佳)

【3区間11・4kmコース】▼中学生女子①加茂中陸上部(高橋香純、捧みなみ、竹内薫)②葵中陸上部(目黒涼子、西湯春香、山下理夏)③加茂中ソフトテニスA(志田愛実、高野真穂、本間未愛)
【5区間19・0kmコース】▼中学生男子①加茂中陸上部(大野友也、磯部慧一郎、小島恭介、高井俊祐、小林尚吾)②葵中陸上部(辻川優祐、中野伸也、名加源平、牛腸勇太郎、小柳慎介)③七谷中A(吉田秀幸、田浦優樹、波塚克志、目黒恭平、斉藤裕貴)

飲酒と健康管理

(はじめに)

十二月は忘年会のため、月別のアルコール飲料消費量が一番多い月です。飲酒と健康管理について簡単にまとめます。

やさしい医学

(アルコールの身体に及ぼす影響)

アルコールの身体に及ぼす影響は、罪の面を取り上げられることが多いですが、功の面も多く実証されています。

(1)アルコールの諸臓器への影響
アルコールは分子量が46と小さく、飲酒すると上部消化管より吸収され、血流に乗って身体の至る所へと浸透しま

は、健康な生活を続けるために重要です。

(よく噛んで老化を防止)

健康で豊かな生活を送るための口腔内ケア。今日は高齢期をみていきましょう。

よく噛むことにより、あごの骨や筋肉が動いて血液の循環がよくなり、脳細胞の働きが活発になって、脳の老化を防ぎます。高齢者の場合「歯が抜けてよく噛めない」「やわらかい食べ物ばかりを食べてしまう」ということを繰り返すと、脳細胞への刺激が少なくなり、ほけにつながります。

(入れ歯と上手につき合い、健康な生活を)

お口を清潔にして誤嚥性肺炎を



生涯を通じた歯の健康づくり④

高齢期

す。よって体の影響も広範囲にわたります。図に飲酒による主な影響や疾患を示します。消化器、循環器、精神神経系、高尿酸血症、発がん、胎児への影響等々わけて広範囲に影響を及ぼすのがわかります。

防ぎましょう

誤嚥性肺炎とは、食べ物や液体が誤って気管の中に入ること(誤嚥)で起こる肺炎のことです。この肺炎を引き起こす細菌には、歯周病を起す菌や入れ歯についている細菌が多く見られます。誤嚥があっても肺炎を起こさないために、普段から日常生活の中でお口を生活に保ちましょう。

(寝たきりになっても)

寝たきりの人の歯の健康や治療には多くの専門家が連絡を取りながら行っています。自宅での訪問歯科診療で、お口のケアを受けることができますので、何か気になることがありますから、お近くの歯科医院におたずねください。

(加茂市歯科医師会)

(2)飲酒の効用と寿命

飲酒と死亡率に関する調査では、エタノール量にして一日二〇〜三〇グラムでは、非飲酒群に比べむしろ死亡率が低いことが明らかにされています。「健康日本21」では、最も死亡率の低い「一日一合」を適正飲酒量としています。また、非飲酒群と死亡率が同等程度というところでみると一日二合(ほろよい程度)までは許容範囲と考えるよいでしょう。一日三合を超えるとさまざまな疾患が多くなり危険です。

最近では、適度な飲酒により老人でも脳卒中や心不全での死亡が少なくなることや、心臓疾患や高齢で発症の糖尿病の患者でも適度な飲酒は寿命を延ばすことが明らかにされています。

なお、アルコールの吸収、代謝は個人差があり、飲酒の量、速度は個々にあった適切なものを知る必要があります。

適切な飲酒で人生を楽しく、長く生きていきたいものです。

参考・アルコール健康医学協会
<http://www.arukenkyo.or.jp/>
(加茂市医師会)

図1 飲酒によりもたらされる主な影響



いけ花宏道流

越雲齋 泉田鴨泉先生の碑

七沢の法華宗・長寿山本量寺の開創水汲場から、まっすぐに延びた参道を左折するまで通ると、左側に台石からの高さ百七十八センチ、幅五十八センチ、仙台石の大きな碑が建てられている。

碑面には「越雲齋泉田先生碑」と彫られ、碑陰には「昭和六年七月十日・門下生一同建立・若槻群逸刻」と記されている。碑前の御影石の線香台には、仲町谷通り泉田清家の「丸に沢湯」の家紋が刻まれている。

「越雲齋泉田先生」は、本名泉田市平、雅号・鴨泉といひ、明治四年に屋号「線香や」貫泉堂に生まれ、家業を嗣ぐ。明治四十三年、東京へ出て、宏道流家元・梨雲齋望月義貫師の直門、

昭和三年、家元代理師範補、昭和四年、新潟県越後支部長を嘱託され、昭和六年五月十日没する。戒名「宏道院立行日訓」と追号される。六十一歳。

鴨泉師は家業線香製造の傍ら、自宅に「宏道流家元代理師範補」の木札を掲げ、後進の指導にあたっている。門人と思われる名簿には、梅雲齋更級旭窓、梅郁田中ムメ、梅浜本間庄次郎など二十四名が書き留めてある。また一門の写真には鴨泉師を中央に男子五人、女子二十三人が全員とも着物、羽織姿で懐かしい。

加茂高等女学校が失立に新築された頃の辞令が残っている。

泉田市平
加茂高等女学校挿花教師ヲ嘱託ス 但年手当金七拾圓給与
昭和四年三月三十一日
加茂町長 丘山 堅

鴨泉師の後を梅雲齋更級旭窓先生、続いて薫雲齋斎藤梅窓先生が、加茂高等女学校華道講師を勤められた。

「宏道流の花」(主婦の友社)によれば、中国の明時代に袁宏道の花論「瓶史」に共鳴した梨雲齋望月義貫が始祖となって宏道流を創始したという。二十四世梨雲齋義寛は、明治維新の騒乱で、すたれた花道興隆に尽力し、鴨泉師は義寛家元に師事しながら協力し、信任篤かったと思われる。

明治四年、谷通りに医師を開業した二階堂保則著「岩井可保世伝」によれば、「可保世ハ多芸デ甚ハ初段、抹茶ハ千家ノ免許、挿花ハ宏道、書ハ佐山、画ハ文晁」と述べられている(原文は漢文)。

遺品の竹塗硯箱の蓋裏に「勤続拾年以上記念 大正十年三月南蒲原郡業業組合」と記されている。幅広い活動の一端であろう。

越雲齋泉田鴨泉先生は、越後人らしい辛抱と、加茂人らしい誠実をもって努め、華道、家業を全うされている。宏道流いけ花師範級十二人が今年の市展を彩っていた。

(古川信三)

おめでとう

厚生労働大臣表彰
小野塚荘一さん(新町二)
小野塚さんは、長年にわたり国民健康保険事業の発展に貢献されています。この功績により厚生労働大臣より表彰されました。おめでとうございます。

ありがとう

社会福祉費寄付金
▼牛鵬サキさん(穀町) から 十万円
▼小野政良さん(故・小野孝一さんのご遺族 秋房) から 三万円
社会福祉事業費として
▼若宮中学校第五回卒業生「還暦を祝う会」一同から 五万三千四百二十四円

▼下条小学校三十回卒業生「喜寿を祝う会」から 八千八百二十六円
加茂市へ

▼川崎美都さん(故・川崎甲治さんのご遺族 岡ノ町) から 介護用具一式
▼東北電力株式会社三条営業所から 街路灯二十三灯
地震見舞金

▼株式会社日立インダストリーズ、株式会社日立ニコトランス ミッションから 百万円とブラズマテレビ(55型)一式
▼富山県富山市長から 十万円
▼宗教法人金光教から二十万円
▼日本共産党中央委員会から 百万円

人口のうごき

11月1日現在
世帯 9,913 (+ 5)
人口 32,799 (-13)
男 15,882 (-12)
女 16,917 (-1)
() 内は前月比

(10月異動分)
出生 13(男 7 女 6)
死亡 21(男12 女 9)
転出 34 転入 29

加茂の風土記



本量寺にある「越雲齋泉田先生碑」

発行 加茂市役所

新潟県加茂市幸町二丁目三番五号
Tel: 02566-0080
Fax: 02566-2729

ホームページ: <http://www.city.kamo.niigata.jp>
E-mail: kamo@city.kamo.niigata.jp

編集 総務課

印刷 株小野塚印刷所